

会山行報告書

通算山行NO	NO. 396B	報告者	後藤隆徳
年月日	2010年01月23日(土・晴)	2万5千	須走・印野
山名	富士山・宝永山(2693m)		
体力度=4・やや厳しい 技術度=4・やや難しい 道標=ある 駐車場=ある トイレ=ない 展望度=よい 三角点名=ない 等級=			
<h2>久しぶりの宝永山</h2>			
コース とタイム	下土狩5:00—洞門発6:00—御殿場口—旧測候所中継小屋—宝永山 10:30—下塚下スキー終了12:05—洞門12:45		
標高差	上り 洞門約1280m~宝永山直下約2700m=約1420m 下り //		
参加者	L後藤隆徳(62)、山本佳樹(42)		



再び富士山に出掛ける。山岳スキーは山域が限定され静岡県の場合、唯一富士山が可能。1時間で行ける我々は果報者かもしれない。

ただ、今年は冬型が強くやや雪が少ないのが悩み。洞門からスキーを担いで行く。今期担ぐのはこれで3回目。二合目でも駄目で更に上り、やっとシール歩行になる。

ただ、先日暖かく雨が降ったらしく

雪面と言うより氷面だった。従ってラッセルはなく上りに関しては効率的だった。今日は久しぶりに宝永山に上れるかも知れないと思った。

一口に宝永山と言っても洞門から標高差は約1400m。これにラッセルがあると簡単には上れないのが実情。加えて年々の加齢で苦しさは増すばかりだ・・・。

20歳違う山本はさすがに馬力がある。後ろで力を持て余しているので先行させる。ルートは宝永山直下で右に曲がる。山本は直登し宝永山の縁を乗り越える。私はまだ30分は掛るので、2693mの標高点まで行って貰う。

宝永山直下でスキーを脱ぎアイゼンで上る。乗越すと西に大展望が開け駿河湾が一望出来た。宝永火口にはほとんど雪は無かった。時間は10時半。標高差1400mを4時間半はマアママ悪くない。

山本と合流し滑降に移る。雪面が硬く傾斜が強くとスキーが履けない。滑降ルートは宝永山斜面の





左の沢を滑る。山全体は雪が少ないが、風下の沢はいい雪がある。

2400mまで滑り更に左の不浄沢(?)はもっと良い雪が続いていた。

ここからニッ塚に大トラバース。上塚から下塚下で終了。今日も満足な山岳スキーだった。

サイコーの斜面



若い二人がいた



宝永火口